

KLIS TODAY

No.
31

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

卒業研究発表会

2017 年 1 月 11 日（水）に、知識情報・図書館学類の 2016 年度卒業研究最終発表会が、知識科学主専攻（1 会場）、知識情報システム主専攻（1 会場）、情報資源経営主専攻（2 会場）の主専攻ごとに実施されました。本号では、各主専攻から 1 名ずつ発表の内容を簡単に紹介してもらいました（p.2～p.3）。

卒業研究の発表会は、着手発表会（6 月）、中間発表会（10 月）、そして今回の最終発表会を含めて 3 回行われます。毎回、必ず発表しなければなりません。着手発表会と中間発表会は、研究の進捗状況を整理して発表し、教員や他の学生からの質問を受ける場です。進捗状況を整理することによって、それまで漠然と進めてきた研究の目的や意義を再認識することができ、大きく前進します。また、質問を受けることによって、研究の方向が適切かどうか、不足していることは何かを確認することができます。中には厳しい意見もあり緊張もしますが、着手発表会や中間発表会での厳しい意見は、むしろ今後の進展にとって有意義なことです。一方、最終発表会は完成した卒業研究の審査の場です。「卒業研究として十分な作業量があるか」、「目的に対して、研究の位置づけや課題の設定に問題がないか」など 5 つの判断基準に基づいて、教員が判定をします[*]。不十分と判定された場合は、審査委員会が立ち上げられ、別途審査を受けることになります。

卒業研究発表会はいずれも公開で行われますので、3 年生以下でも聴くことができます。また、質問もできます。4 年生も含めて、学生からの積極的な質問を期待しています。発表することの意義を書きましたが、質問することにもたいへん有意義です。参加して聴いているだけでも多くの刺激を受けますし、発表がわかりやすいか、説明が論理的か、質問は的確か、などを考えることで、自分の発表にとっても勉強になります。最初は聴くだけのつもりでよいから、積極的に参加してください。そして、できれば質問をしてください。とてもよい機会を利用しないのはもったいないですよ。

[*] 知識情報・図書館学類における卒業研究（2013/3/15）
<http://klis.tsukuba.ac.jp/assets/files/thesis-syllabus20130315.pdf>



日本におけるマイクロライブラリー活動

酒井 菜央

私は知識科学主専攻において、『日本におけるマイクロライブラリーの実態調査』に取り組みました。マイクロライブラリーは広義には図書館の一種ですが、先行研究は非常に少なく詳細な定義もないため、開拓者になるつもりで飛び込みました。調査の枠組みは、文献調査、量的調査、質的調査の3つです。量的調査は全数調査としたため苦勞しましたが、十分に回答を得ることができました。運営者の目的意識からマイクロライブラリーを8つの類型に分け、インタビューでの情報を加えてそれぞれ考察を行いました。

新たな分野に飛び込むには勇気が必要ですが、非常にやり甲斐がありました。本研究を基盤としてマイクロライブラリー活動、そして研究が一層盛り上がることを期待しています。

(さかい・なお 知識情報・図書館学類4年次)



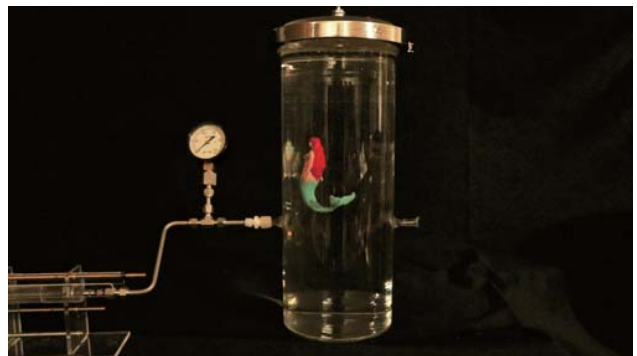
コンピュータを使って水中でモノを動かす

小池 栄美

私はこの1年間、知識情報システム主専攻において、「コンピュータを使って水中でモノを動かす」研究をしていました。そこで、水中で浮き沈みするおもちゃ「浮沈子」の仕組みに注目しました。まず浮沈子の構造を持つように任意の形状の内部の適切な位置に空洞を生成するアルゴリズムをつくり、3Dプリントをしました。3Dプリントで色々な形状の浮沈子をつくること

が可能です。それからシリンジポンプとつながった水槽をつくり、水圧をコンピュータで制御して浮沈子を動かしました。この研究は昨年12月に SIGGRAPH Asia に採択されポスター発表をしてきました。2月の中旬からは都内で開催されるMATというイベントで展示予定です。水中をもっと楽しくするデザインのために、コンピュータが使われると嬉しいです。

(こいけ・えいみ 知識情報・図書館学類4年次)



小規模だからこそ、綿密な調査を

脇田 萌佳

私は情報資源経営主専攻において、「国際バカロレア：ディプロマプログラム（DP）認定校の学校図書館」というテーマで卒業研究に取り組みました。このテーマは国内では未開拓の領域だったため、先行研究や関連資料のほとんどが英語文献で、英語が苦手な私はとても苦労しました。一方で、調査対象数が14校と少ない分、文献調査、質問紙調査、聞き取り調査の3手法を組み合わせ、じっくり向き合うことができ、国内初の実態調査研究として、国内 DP

認定校の学校図書館の実態を詳細に明らかにすることができました。DP 認定校の学校図書館に関わるたくさんの方々のお力添えのおかげでこの研究をまとめることができたので、今回の成果が少しでも現場のお役に立てればと考えています。

（わきた・もえか 知識情報・図書館学類4年次）

国際バカロレア (International Baccalaureate)

- スイスで生まれた国際的な教育プログラム
- 国際バカロレア機構 (IBO) が提供 (1968～)

PYP	初等教育プログラム	3歳～12歳
MYP	中等教育プログラム	11歳～16歳
DP	ディプロマプログラム	16歳～19歳
CP	キャリア関連プログラム	16歳～19歳

DPの実施においては学校図書館の活用が重視されている



卒業研究最終発表会の様子

（左上）酒井菜央さん

（左下）小池栄美さん

（右下）脇田萌佳さん

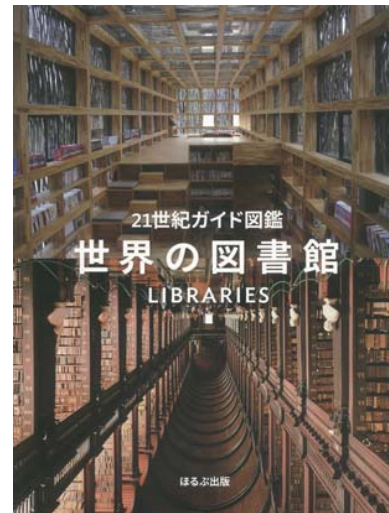


書籍の翻訳・編集作業を経験して

中村 美咲
彼島 瑞生
福田 京子

2016年4月、私たちはビャーネ・ハマー著の LIBRARIES という書籍の日本語訳の文章の編集作業に参加させていただきました。LIBRARIES は新アレクサンドリア図書館やアメリカ議会図書館といった図書館建築分野で名高い図書館を、美しい写真と共に紹介している写真集です。各図書館やその写真に対する説明文について、図書館情報学を学ぶ学生からの視点や意見がほしいとのことで、ほるぷ出版や担当の方々および小峯隆生先生（筑波大学大学院非常勤講師）からお声をかけていただきました。

実際に私たちがさせていただいたのは、翻訳者の方が既に翻訳した LIBRARIES の日本語訳を、図書館情報学の観点から推敲・編集することでした。編集するにあたって大変だったことは、「原文が伝えたいことのニュアンスが保持されているか」「図書館関係者が納得できる文章か」「一般の読者もわかりやすい文章か」といった複数の重要な点をできるだけ満たすように、原文である英文と比較しながら文章を推敲することでした。一学生の身で本格的な仕事をさせていただくことへの不安もあるなか、限られた時間の中でこれらの条件を満たすように文章を推敲するのは並大抵のことではありませんでした。しかし、これまで学類の講義で学んだことをそれぞれが思い出し、一緒に作業を行った院生の方も交えて意見を出し合ったことで、なんとか満足のいく文章に仕上げることができました。



書籍は同年11月に『世界の図書館』という書名でほるぷ出版より出版されました。翻訳元の本の装丁と変わらないずっしりとした重みのあるハードカバーの書籍を手にとった時には、自分たちの働きの成果が形になった感慨深さと、仕事というものに対する重みを感じました。ほんの一部ではありますが、書籍の編集作業に携わるという貴重な経験ができたことは、私たちの中で大変大きなものとなりました。このような貴重な機会とご指導を賜りました関係者の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

（なかむら・みさき 知識情報・図書館学類3年次）
（かのしま・みずき 知識情報・図書館学類2年次）
（ふくだ・けいこ 知識情報・図書館学類2年次）

知識情報特論Ⅱ：卒業生の講演

知識情報・図書館学類 4 年生の必修科目として知識情報特論ⅠとⅡがあります（年度によって、ⅢとⅣ）。この科目は、論文執筆・プレゼンテーションの注意点、担当教員による研究紹介、大学院生による研究事例、研究倫理、卒業生によるキャリア形成の紹介、など多様な内容で構成されています。ここでは、キャリア形成に関する 4 人の卒業生の講演を紹介します。

村野亜子さんは、知識情報・図書館学類を卒業した後、大学院を経て、慶應義塾大学理工学メディアセンターに勤務しています。図書館業務以外にもサイエンスカフェなどのイベントの企画、センターニュースの編集、研修会の企画運営などさまざまな業務を担当しています。文章能力だけでなくレイアウト能力も問われることや、上司から「この時間までに、ここまで」を常にイメージして計画しなさいとアドバイスされたことなどを紹介してくれました。

佐々木琢磨さんは、知識情報・図書館学類の前身である図書館情報専門学群を卒業した後、大学院を経て、ソフトウェア会社に勤務しています。システムの観点からみた課金ゲームの問題点など、守秘事項に触れない範囲で仕事の内容を熱く語ってくれました。卒業研究が終わってから就職までに読むとよい本をいくつか紹介し、最後に、行動前に「あるべき姿」を考える、失敗したら失敗の原因を 2、3 段階掘り下げて反省する、ということばで締めくくりました。

折戸晶子さんは、図書館情報専門学群のさらに前身である図書館情報大学を卒業し、明治大学図書館に勤務しています。最初は不本意だと思った庶務業務もやってみると自分に合っていたし視野も広がったこと、外部機関での研修のチャンスを逃さないようにしたこと、当時はまだ少なかった女性管理職への昇格試験にチャレンジしたこと、新図書館建設プロジェクトに携わる好機に恵まれたことなど、少し無理をしてでもチャレンジすることの重要性を伝えてくれました。

杉山美佳さんは、折戸さんと同期で図書館情報大学を卒業し、NTT コミュニケーションズに勤務しています。企業活動の仕組みや会社で働くことの意義を、多くの図を使って紹介してくれました。「昔」は具体的なゴールを設定しそこに向かってひたすら努力する「山登り」が主流だったが、「今」は大体の方向だけ決めて目の前のものを選択しながら柔軟に進行する「川下り」のほうが時代に合っているなど、さまざまなアドバイスが盛り込まれていました。



国際インターンシップ@上海図書館

金沢 和貴
岡田 敬

2016年9月20日から30日にかけて、私たちは上海図書館（写真）で国際インターンシップを体験させていただきました。

最初の2日間で分館である徐家匯蔵書楼を含む、上海図書館の各部門を見学させていただきました。外国語図書を扱う部門では、日本語図書の購買担当者と話す機会に恵まれ、購入する本の基準や購入に至るまでにどのような手順をとるのかといった、貴重なお話を伺いました。3日目からは外国語を扱う部門で業務を体験しました。請求記号の付与を始めとした、コレクションが書架に並ぶまでの作業を体験することで、利用者に本が届く過程を知ることができました。最終日には、上海図書館職員の前で用意していた筑波大学と日本の図書館に関するプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション発表後には、上海図書館職員の方と、日中の図書館事情の相違点、共通点などを議論させていただきました。例えば上海図書館が日本の図書館と異なる点として、貸出カード作成にお金を預ける必要がある点や SNS を通じて電子書籍を無料で配信するサービスを行っている点などが挙げられます。一方で本の貸出手順やデジタル化を行う図書の選り方など、日本の図書館との共通点もありました。

この国際インターンシップを通して、上海図書館を始めとした中国の図書館の在り方を学ぶことができました。また、日本以外の図書館に行った経験から、日本の図書館を客観的に見ることができるようになったと思います。出発前の準備として作成したレポート課題は、今まで学んできた図書館に関する知識をまとめる良い機会となりました。改めて、上海図書館職員の方々、国際インターンシップ担当の先生方に感謝致します。

（かなざわ・かずき 知識情報・図書館学類3年次）

（おかだ・たかし 知識情報・図書館学類3年次）



韓国での国際インターンシップを終えて

佐藤 いつみ

2016年9月5日から14日の10日間、私は韓国・釜山大学校で受け入れていただきました。この国際インターンシップでは釜山、ソウル、蔚山地域の図書館を見学し、釜山大学校の授業を体験しました。

図書館見学では釜山大学校図書館（写真）をはじめ、国立中央図書館、国立デジタル図書館など多くの施設を訪問させていただきました。実際に館内の様子や利用者を見ることで、両国における共通点や相違点を学ぶことができました。



授業体験は全て英語で受講し、専門的内容を英語で学ぶ難しさを実感しました。また、授業内で日本の図書館についてプレゼンテーションし、韓国の学生と図書館について意見交換することができました。

事前準備や事後報告を含め、今回の経験で得たものは大きかったと思います。国際インターンシップに興味を持っている方はぜひ挑戦してみてください！

（さとう・いつみ 知識情報・図書館学類3年次）

転換期となった夏

土屋 深優

2016年9月、私はピッツバーグ大学図書館でのインターンシップに参加しました。私はインターンシップ中に「リッジウェイコレクション」という貴重な資料についてのデータ作成等を担当しました。また、仕事の合間にはピッツバーグ大学図書館のライブラリアンの方々と触れ合う機会も多く作っていただきました。ライブラリアンの方々のお話を聞き、仕事の様子を見るうちに、私も「もっと専門的な知識や技術を身に着けたい」という気持ちが起



こり、自分の進路を考え直すきっかけになりました。後輩の皆さんには、ぜひ国際インターンシップを通して広い世界を垣間見てほしいと思います。最後になりましたが、国際インターンシップ担当の先生方、ピッツバーグ大学図書館の皆さま、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

（つちや・みゆう 知識情報・図書館学類3年次）

学類誌 MILK 編集部 2016 年の活動を振り返って

塗木 健二

2016 年、学類誌 MILK は 9 号、10 号、研究室紹介号の計 3 誌を発行することができました。ひとえに、メンバーや編集長の働きによるところが大きいと思われます。私に関して言えば、締め切りを伸ばしてもらい、大変ご迷惑をお掛けしました。

さて、今回、KLIS TODAY の記事を任せ、2016 年の学類誌 MILK の活動を、私の視点から振り返っていくことにしました。私が MILK に入ってから記事を書き始めたのが、ちょうど 2016 年でした。9 号では、Twitter の記事を書くといったり（アンケート調査に協力していただいた方々、本当にありがとうございました）、10 号では、ネタがないので聖地巡礼してくるといったりする私の我が儘に振り回されながらも、現編集長 K や他のメンバーがアイデアや意見をくれるので、私はなんとか（伸びた）締め切りまでに記事をあげることができました。



MILK10 号発行、学内にて配布



2016 年より雙峰祭にも出店！

2016 年の MILK の内容は、手前味噌になりますが、非常に面白かったです。知識情報・図書館学類の学類誌なので、「図書館」寄りの雑誌なのではないかと、危惧する気持ちもあるのではないのでしょうか？否定はしませんが、2016 年の MILK に関していえば、「図書館に行ってみた」という内容よりも、「図書館で～をしてきた」というような内容の記事が、多く目についたように思えます（イギリスやインドネシア、古墳にも行っているメンバー

もいました（笑））。詳しくは 9 号、10 号をぜひ読んでみてください。MILK のホームページから電子版を読むことができます。

2017 年学類誌 MILK は愉快的なメンバーらと共に雑誌を発行していきたいと思います。私は、「面白い記事を書く」「締め切りを守る」を目標に頑張っていこうと思います。ぜひ、これからどんどん面白くなっていく学類誌 MILK を見守っててください。

（ぬるき・けんじ 知識情報・図書館学類 3 年次）

Web : http://klis.tsukuba.ac.jp/klis_milk/

Twitter : @KLISMILK